



VITA PLUS
若者・対話・地域

2005年8月29日、谷口諭、西田みづ恵を中心とする大学生チームが、高知県立大方高等学校で特別授業を行いました。テーマは、「自分を信じる、できると信じる」。総合学習の時間を利用して、同校の1年生55名が、自分の夢をクラスで発表し、それをどのように実現していくのかを大学生と一緒に考えてきました。

この授業は、6月に行われた「おおがた学校一日体験入学」が発端となって、同校の教頭である濱田久美子氏から、大学生との交流によって地方の高校生に夢や希望を持たせるような授業ができないかと相談があり実現したものです。まず谷口、西田が授業の内容を企画し、他大学にスタッフを募りました。この呼びかけに応じて、津田塾大学、立命館大学、大阪市立大学、関西学院大学から1名ずつ学生が集まり、高知大学の学生もオブ



ザーバーとして参加しました。授業では、まず、ドラえもんをお願いしたいことを高校生に書いてもらい、現実の世界でその夢を実現するにはどうすればいいのかを一緒に考えてきました。授業後、大学生が、自分だったらどのようにして夢に向かって行動するかを考えて、高校生一人一人に手紙を送りました。授業後のアンケートでは、74%の高校生が「楽しかった」と答え、83%から「大学生を以前より身近に感じた」という声が寄せられました。また、この授業は、8月30日付の高知新聞朝刊「大方高生 大学生に学ぶ」でも紹介されました。



飯盛義徳研究室では、地域の高校生に対する起業家精神育成プロジェクトを実践しています。現在は、そのための教材開発を行っている最中です。今回の授業を通じて、高校生が主体的に考えられる内容、授業での接し方、積極的な参加を促す仕組みづくりなど、多くの大切なポイントを学ぶことができました。今後のプロジェクト推進に生かしていくことのできる貴重な経験が出来たと思っています。（谷口諭・西田みづ恵）